

〈第22回環境システム計測制御学会 (EICA) 研究発表会〉

全 体 報 告

環境システム計測制御学会 企画委員長

田 子 靖 章

(メタウォーター(株))

第22回環境システム計測制御学会 (EICA) 研究発表会は10月28日(木)、29日(金)の両日、立命館大学の共催により滋賀県草津市の立命館大学びわこ・くさつキャンパスで開催され、214名の皆様の来場を頂き活発な討議が行われました。ご協力頂きました関係各位、ならびにご参加いただきました会員各位に厚く御礼申し上げます。以下、本研究発表会の全体概要についてご報告致します。

28日の講演およびパネルディスカッションはローム記念館大会議室で行われました。当研究発表会特別実行委員長 武田信生 立命館大学エコ・テクノロジー研究センター長の開会宣言に始まり、当学会の田中宏明会長より開会の挨拶がありました。引き続き今回の研究発表会開催にあたり、共催を頂きました立命館大学の副総長 飯田健夫様より環境分野・技術における立命館大学の取り組みと本研究発表会の開催についての祝辞をいただきました。

続いて「低炭素社会システム構築のための道筋」と題して、立命館大学経済学部教授の島田幸司様より基調講演をいただきました。「低炭素社会」とはどのような社会なのかをイメージ設定し、その達成のためには技術・ハード面のみならず社会経済やソフト面を抜本的に見直す必要があること、また中長期的なロードマップを定量的かつ整合的に導出することが重要であることを講演いただきました。

パネルディスカッションでは基調講演に引き続き座長を島田幸司様、パネラーを滋賀県琵琶湖環境科学研究センター センター長の内藤正明様、立命館大学 情報理工学部 知能情報学科 准教授の谷口忠大様、ひがしおうみコミュニティビジネス推進協議会 事務局長の橋本憲様、(株)日立製作所 社会システム事業部 主幹技師長の早稲田邦夫様の4名により、「低炭素化社会に向けた自律分散型インフラ」と題して行われました。ディスカッションでは、地域的な削減目標を掲げて太陽光発電などの独自方策を推進している滋賀県の事例紹介や、自律分散型スマートグリッドと地産地消型の知能化電力取引の研究紹介、水循環の低炭素化に向けた取り組みの紹介、大量生産の工業社会の延長ではなく新たな豊かさを模索してどのような社会像を描くか



研究発表会会場：ローム記念館(上)とエポック立命21(右下)



● 開会宣言



特別実行委員長 武田信生教授

● ご来賓の挨拶



立命館大学副総長 飯田健夫様

● 基調講演



立命館大学教授 島田幸司様

● 特別講演



京都大学名誉教授 川那部 浩哉様

● パネルディスカッション



● 研究発表会 会場の様子



● ロゴマーク表彰式



● 奨励論文賞表彰式



など、目標達成に向けた道筋について多面的な視点から活発な議論が行われました。

また、前琵琶湖博物館 館長の川那部浩哉様より、“琵琶湖と「生物多様性」”と題して特別講演をいただきました。極めて豊かな生物多様性を誇る琵琶湖流域の水環境についてのお話は、水環境に携わる研究者、技術者にとって大変興味深いものでした。

引き続き、ロゴマークと奨励論文賞の表彰式が行われました。当学会の20周年を記念して一般公募から選出されたロゴマークと6編の論文が奨励論文として選考され、田中宏明会長より賞状と副賞が手渡しされました。

その後、会場を立命館大学のリンクスクエアに移動し開催された交流会では、ご来賓、講師の諸先生と多数の参加者により有意義な意見交換の場となりました。

29日の研究発表会はエポック立命21にて行われました。研究発表は環境モニタリング9編、浄水処理5編、下廃水処理14編、情報・エネルギー5編、環境9編、汚泥処理4編、廃棄物処理4編、未来プロジェクト3編の合計53編の論文発表が行われました。各セッションでは研究発表論文の発表と質疑応答が行われ、それぞれのセッションでは活発なディスカッショ

● 交流会会場風景



ンが行われました。特に水運用シミュレーションやアドバンス制御、最新センサーなどの浄水・環境モニタリングや下廃水処理セッションでは定員を大幅に上回る盛況となり、最新の計測制御技術への関心の高さを感じました。

今回の研究発表会でなされた様々な情報交換、議論が来年の研究発表会へとつなぐられ、更に多くの研究成果が生まれることを祈念いたします。